

# 編集ノート

よその雑誌が気にかかる。それも、お上の発行ではない、また、親方日の丸的にお金の心配のない雑誌ではないやつにだ。中国では最近、発行されているとか、発行禁止になったとか、いわゆる地下出版物があることを聞く。文芸誌、理論評論誌はさておき、研究同人誌のようなものがはたして存在しているのかどうか、出版、印刷の自由ともあいまって興味を感じていた。そこに魏紹昌氏より『文教資料簡報』100期記念号をいただく。「私達のは学校の自主刊行物で、自分で紙を調達し、自分で印刷の問題を解決し、自ら損益を負担しなければならなかった…」とあるところからも、どうもこれが日本でいう同人誌に当るような気がする。誌名からもわかるように資料を中心とした雑誌だ。当誌は、「文化大革命」の第6年日1972年9月、大字報形式で資料を大学の廊下に掲示したことに始まる。大字報では保存に不便だという意見が出て、『文教動態』と名付けたガリ版刷りの小冊子を3期発行したところ好評を得、同年12月活版印刷に改め『文教動態簡報』と改名、

15期を出版して『文教資料簡報』に再度改題し現在に至っている。中国でも資料編集の仕事は軽視されているらしく、それへの反発が編者たちを雑誌発行へ駆り立てたらしい。100期記念号には浩然らの祝辞のほか、1960年に行なった左聯メンバー（蕭三、楼適夷、王学文、王蕾嘉、張庚、杜宣）の聞き書き、夏衍「回憶「左聯」」等、興味深い記事で埋められている。最近、自主刊行物取り締まりの方針が出されたというが、研究の基礎は資料にあり、該雑誌の行く方が中国における研究の健康度をはかるひとつの目印であると、大げさではなく、私は考えるのだ▼毎号不十分なが資料目録を特集してきたが、本号は、ない。李伯元の資料目録を作製するつもりで材料を収集していたのだが、魏紹昌編『吳研人研究資料』（上海古籍出版社1980.4）を見てから考えが変わった。当書には、氏の以前の資料集と異なり研究文献目録がつけられている。日本における中国文学関係の資料収集の限界がある意味で知らされたということだ。氏の『李伯元研究資料』が出版されるのを待って、それを充分に利用させていただいた上で、あらためて文献目録を作ろうという虫のいいコンタンなのである▼ハガキ通信を出している。第7号は年賀に替えて発行する。申込有次第即郵送（たる）

## 清末小説研究 第4号

発行日■1980年12月1日

実費■980円（送料200円）

編集兼  
発行人■樽本照雄

印刷所■早稲田大学印刷所

発行所■清末小説研究会

〒520 滋賀県大津市

打出浜8番4-504

樽本照雄方

振替 大阪 40475

# 野草第27号

気がついてみたらもう10年いろいろ大特集（仮）予告

## 文学の現在 その3

### 創作の現在

- 王蒙の近作について……………相浦 晃  
野草・老二黒離婚・山菜蛋派……………釜屋 修  
「作品」の小説について……………名和又介  
張弦作『記憶』賛……………鄭 万鵬／荒岡啓子訳

### 研究の現在

#### 「中国現代文学史」諸本の検討

- 文学革命期の胡適……………牧戸和宏  
“文学史観”と“文学的事実”のはざま……………阪口直樹  
文芸講話が批判した作家たち……………岡田英樹  
現代文学史における瞿秋白……………斎藤敏康  
現代文学史における『子夜』……………石黒雅英  
中国近代文学研究は復活しつつあるか……………樽本照雄  
大小仲馬憂き目を見ること……………興膳 宏  
文学運動の研究について……………坂本正博  
茹志鵬の作品について……………細谷草子  
郁達夫と木村毅著「小説研究十六講」……………鈴木正夫  
中国児童文学小史（1）……………新村 徹

## 魯迅特集 その7

- 『兩地書』原信拾い読み……………丸山 昇  
紹興の船……………丸尾常喜  
『藤野先生』小論……………三宝政美  
厨川白村と1924年における魯迅……………中井政喜  
魯迅の「懐旧」について……………池沢実芳  
「摩羅詩力説」材源考ノート（15）……………北岡正子  
北京往日抄……………澤田瑞穂  
香港中文大学に留学して……………瀬戸 宏

### 清末小説研究

- 商務版『説部叢書』について……………中村忠行  
呉趼人の『俏皮話』について……………麦生登美江

### 古典文学研究

- 柳宗元永州望郷詩……………下定雅弘  
陸游と螢……………入谷仙介  
旧詩から新詩へ……………松村 昂  
飛び入り参加の記……………武藤康代  
『野草』第26号合評……………太田 進

### 資料

- 巴金年譜Ⅱ……………嶋田恭子

# 清末小説研究

第 3 号

1979年12月1日発行 ■980円 (送料 200円)

〔特別寄稿〕

《冰山雪海》は冒名李伯元編訳の一本仮貨……魏 紹昌 (1)

〔参考資料〕冰山雪海……………楊 世驥 (5)

魏紹昌氏のこと……………樽本 照雄 (7)

清末探偵小説史稿(二)……………中村 忠行 (10)

金松岑と曾樸の『孽海花』……………麦生登美江 (61)

金港堂・商務印書館・繡像小説……………樽本 照雄 (74)

吳趸人研究資料目録……………中島 利郎 (114)

I 著訳目録…………… (114)

II 文献目録…………… (127)

〔新出資料〕還我魂靈記……………我佛 山人 (134)

# 人民文学 総目録・著 訳者名索引

雑誌『人民文学』は、中華人民共和国成立と同時に創刊(1949年10月)され、1966年文化大革命の開始によって一時休刊するまで全198期が発行された(1976年1月復刊、現在継続発行中)。

全国誌の性格を持つ文学専門雑誌として、休刊までの16年間、一貫して文学界における指導的な役割を果たしてきた。それ故、同誌に掲載された数多くの話題作、問題作を見て行けば、現代中国文学の基本的な流れをかなり忠実に理解することが可能である。『人民文学』に触れずして現代中国文学研究は成立し得ないと言っても過言ではない。

総目録●1966年文化大革命によって休刊するまでの全198期の総目録を収める。

●各期の目録をもとにし、事項の一つひとつを本文で確認の上、目録に採られていない項目も採取した。●簡化字を用いた。

著訳者名索引

●著訳者別に作品名を記し、著訳者別作品目録をも兼ねる。●漢語拼音字母の順に排列した。

■A 5判 ■上製本 ■310頁 ■定価9,000円

采 華 書 林

〒464 名古屋市千種区末盛通4-17藤栄ビル2階 振替名古屋4185

# 野草第25号

中国文芸研究会

〒大阪533 大阪市東淀川区大隅3-2-12 大阪経済大学内 振替 4168

1977・1978年中国文学大概……………	高島 俊男
阿英『晚清小説史』の翻訳を読む……………	樽本 照雄
合宿記……………	中田明日香／前田利昭
小説「阿恵」について……………	前野 淑子
丁玲女史にお会いして……………	堀 黎美
形象思维論の展開……………	斎藤 敏康
『新文学史料』叢刊 第一輯「作家資料」雑感……………	鈴木 正夫
「補天」解釈の余地……………	三宝 政美
「摩羅詩力説」材源考ノート(13)……………	北岡 正子
『孽海花』〈20回本〉と 〈30回本〉との字句の異同について……………	麦生登美江
《資料》1797・1978年中国文学雑誌 作者作品目録……………	高島俊男／伊藤和子

■ 1200円 (送料 200円)

# 野草第26号

〒464 名古屋市千種区末盛通4-18-5 栄ビル2階 振替名古屋418517

采華書林

周豊一氏との往復書翰……………	鮑 耀明
蕭紅研究ノート……………	中川 俊
蕭軍との交流記……………	浦元里花
蕭紅・蕭軍著作及び関係資料日録稿……………	前野淑子
魯迅の復讐観について……………	中井政喜
「摩羅詩力説」材源考ノート(14)……………	北岡正子
巴金年譜……………	嶋田恭子
劉心武関係資料日録……………	江崎瑞枝
一九七七・一九七八年中国文学雑誌作者作品 目録補遺……………	高島俊男／伊藤和子
《書評》釜屋修『中国の栄光と 悲惨 評伝趙樹理』……………	牧戸和宏
牧戸氏の書評に寄せて……………	釜屋 修

■ 1200円 (送料 200円)